

「おかえり花子」 アフリカゾウ繁殖プロジェクトが一区切り



東北の3つの動物園（秋田市大森山動物園、仙台市八木山動物公園、盛岡市動物公園）で飼育しているアフリカゾウの共同繁殖プロジェクトが始まったのは2017年のことでした。^{※1}今回、そのプロジェクトに大きな動きがありました。2018年に大森山と八木山の間で新たなオスとのペアリングを行うことで、環境変化による排卵誘発と繁殖をめざし、交換した花子とリリーでしたが^{※2}、2頭の排卵は止まったままで、また2021年3月に大森山で飼育していたオスのだいすけが死亡し^{※3}、当園での自然繁殖の可能性が無くなったため、それぞれ元の動物園に戻すことにしました。

今回の特集では、リリーが秋田に来てからの6年間を振り返り、移動に備えて大森山と八木山との間で取り組んだことや、帰ってきた花子の今後について紹介します。

園長補佐 三浦 匡哉

大森山でのリリーの6年間

飼育展示担当 副参事 小川 裕子

2018年にリリーが来園してから定期的に行っていた血中、糞中および尿中ホルモン検査では性周期の改善は見られず、北海道大学との共同研究で2種類のホルモン療法も試みましたが、いずれも性周期の正常化は認められませんでした。

2021年、だいすけの死後に行われた3園の会議で、リリーに自然繁殖の可能性が無くなったことや2頭がそれぞれの市民にとって特別な存在であるということから、翌年（2022年）に花子とリリーをそれぞれ元の園に戻すことが決まりました。

それを受けて2021年秋に鎮静剤の投与試験を行いました。ゾウを輸送箱に入れることはとても難しく、何か月もかけて輸送箱に慣らしします。最後はチルホールという道具でゾウの足を引いて輸送箱に入れますが、鎮静状態の方がより安全に作業を行えることから鎮静剤を使うことにしました。

リリーを八木山から搬出する際にも同じ薬で鎮静を行って

いたので、今回も同様の経過をたどるかどうかが、鎮静状態における飼育員の号令への反応などを確認しました。試験は無事に終了し、有益なデータも得られ安心しました。

しかし、移動する直前の2022年4月23日にリリーが倒れて起き上がれない状態になりました。^{※4}幸いリリーの体調は順調に回復しましたが、移動に耐えうる体力があるかの判断が困難でした。当園にはゾウを計量できる体重計がないため、痩せたか太ったかの判断は人により異なります。そこで、八木山の獣医師と共同で移動のための客観的な評価法を作成しました。この基準を満たしていれば移動可能と判断するものです。内容は体の筋肉や脂肪の付き方を複数方向から評価するボディコンディションスコア（BCS）やエサの採食量、糞の量や状態、日中の行動、夜間の睡眠時間等の項目から構成されています。



仙台から到着後、だいすけ(左)と過ごすリリー(2018年10月)



リリーのお別れ会を開催(2024年5月)

BCSに関わる体の筋肉については、ゾウ担当の飼育員が長時間の移動に耐えうる筋肉を鍛えるために、首から肩の筋肉トレーニングや長時間展示場を歩かせるために給餌方法を工夫するなど、チーム一丸となって取り組みました。また、便状や日中の行動に関しては、2022年の秋に^{せんつう}疝痛(腹痛)があり、便状回復まで時間を要しましたが、2023年春にはすっかり回復し、いつ移動しても大丈夫な状態になりました。

2024年3月下旬、輸送箱が届きました。リリーにとっては6年ぶりですが、ゾウは記憶力の良い動物なので、6年前の輸送箱に入った記憶が残っています。リリーが輸送箱に恐怖心を持っている可能性が高いことを考慮し、箱に慣らす期間は余裕を持ったスケジュールにしました。ゾウ担当の努力と

チームワークでスケジュール通りの成果が得られ、6月3日の移動当日の箱入れは時間通りに終了でき、とても感動しました。同日15時、リリーは予定通り無事に八木山に到着し、すぐに環境にも慣れ、元気に暮らしています。



順調に輸送箱へ入り、リリーが仙台へ出発!



バイバイ

帰ってきた花子

飼育展示担当主席主査 山上 昇

2024年6月5日、仙台にいた花子も無事に輸送箱に入り、八木山を予定通り11時頃に出発しました。秋田までの道中、最初は不安からか輸送箱の小窓から周囲を確認するかのようになり鼻先を何度も出していました。おそらく6年前の移動経験がよみがえっているのだと思いました。その後、鼻先を出さなくなりちょっと心配しましたが、秋田県に入った途端鼻先を出し、元気な様子が確認できて安心しました。

同日15時過ぎ、無事に大森山に到着しました。緊張した様子ながら久しぶりの故郷の香りを楽しむかのように、鼻先を輸送箱の小窓から出し、周囲を確認していました。そして、「おかえり花子」と声をかけながら少しずつ輸送箱の扉を開けると、元気な様子の花子と対面することができました。花子も

やや緊張と興奮で落ち着かない様子も見られましたが、怪我もなく無事に住み慣れた我が家に入り、部屋中を動き回りながら徐々に落ち着きを取り戻し、エサを与えるとすぐに食べ始めました。

今後、花子は単独生活になるため、日中は給餌回数を増やすことで担当者が花子の行動をより細かに観察するほか、大きい古タイヤなどの遊具を設置して遊ばせたり、時には担当が筋力トレーニングや水遊び(水浴び)の相手になったりして、花子が安心して生活できるよう見守っています。また、夜間はビデオ録画して睡眠時間や行動を記録するなど1日を通して行動を観察し、花子が毎日元気に過ごせるようゾウ担当をはじめ飼育員皆で力を合わせケアしていきたいと考えています。



6年ぶりに大森山に帰ってきた花子



到着後エサをもらう花子



タイヤで遊ぶ花子(お腹を上に乗せるのがお気に入り)



食欲旺盛で好物の枝葉をモグモグ

さらに詳しく知りたいかたは、コミュニケーションのバックナンバーでご覧いただけます。

※=発行号 ※1=No.96、※2=No.97、※3=No.102、※4=No.104

